

小委員会（会場）議事録

日時：令和3年9月24日（金）午前10時40分～11時30分

場所：西那須野支所100会議室

メンバー：寺戸博道委員、橋本秀晴委員、相馬秀和委員、高橋美代子委員、
大内康子委員、薬師寺嘉範委員、加藤茉莉委員、山本雅子委員

進行：橋本秀晴委員

【基本目標1 誰もが利用しやすい地域福祉の仕組みづくり】 総合評価 B

- 施策の方向性1 誰もが利用しやすい体制・情報提供の充実 B
- 施策の方向性2 地域福祉のニーズキャッチの充実 B
- 施策の方向性3 福祉サービスの充実と権利擁護の推進 B

【意見等】

・那須塩原市にある可能なニーズキャッチの方法がフルに使われていないのではないかな。自治会と民生委員児童委員だけにニーズキャッチを頼っているのではないかな。新聞販売店やヤクルト販売などに声を掛けて、ニーズキャッチする方法をまだやっていない。ヤクルトは、宇都宮市や大田原市で実施していて、ヤクルトを渡しながら安否確認を行っている。予算的にはそんなかかるものではないので、ぜひ実施して欲しい。ニーズをキャッチする手を色々なところに広げてもらいたいと考えている。

・今は、事業者の好意でやってくれていると思うが、市から、そのような業者にお願いの文書を出すことはできないかな。

・高齢者人口が増えている中で、相談窓口は、わかりやすいものであって欲しい。自治会内でトラブルが起こった時、トラブルを処理していくのは、自治会長であるが、地域包括支援センターの業務についての情報を知らない。民生委員児童委員は、地域包括支援センターをよく知っているが、自治会長にも周知した方が良く考えている。

・総合相談窓口は必要だと思う。行政は縦割りになっているため、このような委員会の中から強く意見を出していかなければ改善されない。

・企画部からのコメントで、分散型地域づくりを進めていくとあるが、良い面も悪い面もあると考えている。窓口の一極集中ではなく、DXを活用しながら、公設公民館に窓口を作っていくものであるが、よく検討していかないといけないと思う。総合相談窓口には、スキルの高い人材が必要であると考えているが、分散型窓口でAIを活用しても、たらい回しが発生すると危惧している。検討するに当たっては、市民の立場に立って考えていただきたい。

【基本目標 2 誰もが暮らしやすい生活環境づくり】総合評価 B

- 施策の方向性 1 生活環境の充実 B
- 施策の方向性 2 防災・防犯体制の充実 B
- 施策の方向性 3 地域における見守り体制の充実 B

【意見等】

- ・私有地からの立ち木の管理について、条例などを作っておけば、災害の時など役立つのではないかと考えている。
- ・バスは、高齢者バスの停留所に待ち時間休めるスペースがあった方がよい。
- ・町内に空き家がたくさんあり、台風の時など倒れる心配がある。
- ・高齢者のみ世帯で、除草が難しくなっている方が多くなっている。空き家に限らず、住んでいても草が生い茂っている所がある。そのような世帯を手助けする応援隊のような仕組みを市で検討していけないか。
- ・避難行動要支援者支援事業は、同じ地域に住んでいる人が支援しないと、有事の際には役に立たないと考えている。災害時の避難行動要支援者の避難計画は、コロナ禍で相当遅れるのではないかと考えているが、改めて、地域の取り組みを強化していかなければならないと考えている。

【基本目標 3 みんなで支え合う、意識づくり、人づくり、つながりづくり】総合評価 B

- 施策の方向性 1 お互いを理解し、尊重し合える環境づくり B
- 施策の方向性 2 地域福祉活動の担い手の育成 B
- 施策の方向性 3 地域でのつながりづくり B

【意見等】

- ・5月から高齢者の認知症カフェを『くるる』で月2回でスタートしており、とても良い活動だと思っているが、コロナの影響で休止している。その他の居場所も休止しているので、早くコロナが収まって、再開されることを願っている。
- ・子どもや高齢者が集まる活動で、コロナ禍での対応について悩みが多い。那須塩原市は、格安でPCR検査を受けることができることから、これを利用して仕組みが作れないか。中止にしなくても集まれる仕組みを那須塩原市として検討できないかと考えている。
- ・つながるということは、集まるということが大前提だと思っている。今年度は、自治会の敬老事業が復活し、150あまりの自治会が、何らかの事業を実施した。その結果を見ても、やはり、コロナ禍であっても地域のつながりは欠かすことができないことであると考えて実施している。会議であればオンラインでできるが、人と人との地域のつながりについては、今後もコロナ禍であっても何らかの創意工夫が必要であると考えている。